

# 事務事業評価シート

評価実施年度：平成30年度

上位の施策名称 施策I-2-1  
売れる農林水産品・加工品づくり

## 1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長

畜産課長 原正三

電話番号

0852-22-5132

事務事業の名称	畜産競争力強化対策事業	
目的	(1) 対象	畜産業を営む法人、JA、市町村等
	(2) 意図	畜産農家を始めとする関係者が連携して、地域一体となって取り組む生産コストの削減や規模拡大等に必要な施設整備等を支援することにより地域における畜産・酪農の収益力・生産基盤の強化を図る。
事業概要	農家戸数や家畜の飼養頭数の減少など畜産・酪農等の生産基盤の弱体化が懸念される中、足腰の強い高収益型の畜産・酪農を創出していくために、地域に存在する各関係者が有機的に連携・結集した高収益型畜産体制の構築を推進し、畜産クラスター計画に位置付けられた中心的な経営体に対し、収益性の向上を図るために必要な施設整備等に要する経費の一部を補助する。	

## 2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位	
1	指標名	和牛子牛年間生産頭数	目標値	6,686.0	6,756.0	6,831.0	6,911.0	7,000.0	頭
	式・定義	当該年度における子牛登記頭数	取組目標値						
			実績値	6,686.0	6,827.0	6,895.0			
			達成率	100.0	101.1	101.0	-	-	%
2	指標名	生乳生産量	目標値	64,200.0	65,400.0	66,600.0	67,800.0	69,000.0	t
	式・定義	当該年次による生乳生産量	取組目標値						
			実績値	64,994.0	67,102.0	65,851.0			
			達成率	101.3	102.7	98.9	-	-	%

## 3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費(b) (千円)	246,513	370,000
うち一般財源 (千円)	0	0

## 4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	③改善策を検討中
---------------------	----------

## 5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

平成29年度（平成30年度繰越事業を含む）の事業実施件数は以下の通り  
 肉用牛：岡崎の島町（牛舎、堆肥舎）事業費：33,372千円  
 養鶏：雲南市（鶏舎、鶏卵選別包装施設、鶏糞処理施設）事業費：131,144千円 邑南町（鶏舎）事業費：14,439千円 大田市（鶏舎）事業費：62,316千円  
 出雲市（鶏舎）事業費：73,548千円  
 養豚：浜田市（豚舎）事業費：319,231千円  
 飼料：安来市（自給飼料施設）事業費：34,981千円  
 平成30年3月31日現在：県内畜産クラスター協議会設置数 14組織

## 6. 成果があったこと（改善されたこと）

7件の増頭羽計画のための施設整備を実施した。  
 肉用牛（牛舎1棟、堆肥舎1棟）30頭  
 採卵鶏（鶏舎1棟、鶏卵施設1棟、  
 鶏糞処理施設1棟）11,2千羽  
 採卵鶏（鶏舎1棟）2,2千羽  
 採卵鶏（鶏舎1棟）9,1千羽  
 採卵鶏（鶏舎1棟）10,1千羽  
 肥育豚（豚舎1棟）890頭  
 自給飼料（保管調整施設1棟）6,3ha

## 7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

- ①困っている「状況」
- 施設整備や機械の導入希望者が、事業採択されないことで、規模拡大や労働負担の低減を図るなど生産基盤の強化がすすまない。
- ②困っている状況が発生している「原因」
- 地区畜産クラスター協議会が設置されていない地域があり、県下全体での推進体制が整っていない。
  - 要望調査開始から、申請までの期間が短く、関係機関で連携しているものの計画的な準備ができていない。
- ③原因を解消するための「課題」
- 県内の畜産農家が事業参加できるように畜産クラスター協議会が設立されていない地域は、早期の組織化が必要。
  - 畜産クラスター協議会として、施設整備強化の速やかな実現に向けて、早い段階での要望把握や計画の作成を進めることが必要。

## 8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

- 今後も畜産基盤強化のための施設整備実施を図る必要がある。
- 県下全域の事業要望者をカバーできるよう、畜産クラスター協議会の未設置地域における設立を推進する。
- 畜産クラスター計画の改善などへの支援とともに、県内生産者の要望を正確に把握し、計画的な事業実施を支援する。